

## 目屋・相馬ダム緊急放流 ～岩木川水系渇水対策支部『警戒体制』に移行～

- 岩木川水系においては、7月下旬以降まとまった降雨がなく、水道用水・農業用水を補給する目屋ダムの水位が著しく低下しており、昨年の渇水と同様に用水補給が十分にできなくなる恐れがあります。
- これらの対応として、岩木川流域の水田約12,000ha（※別紙2）に対して、稲の花が咲く時期に緊急的に8月11日から、目屋ダム(県)及び相馬ダム(県)から緊急放流を実施し、農業被害を最小限に抑えます。
- また、今後、このような状態が続くと取水障害や重大な被害等が懸念されることから、8月2日に設置した「岩木川水系渇水対策支部（注意体制）」を8月10日17時に『警戒体制』に移行し、監視体制及び関係機関との情報共有の強化を図ります。

### 〈今後の見通し〉

- ・弘前市やつがる市の5土地改良区では、水田を地区毎に分けて順番に農業用水を使う「番水」を7日から開始して節水に努めていますが、このまま日照りが続くと、水稻の出穂期に必要な水が確保できない状況も想定されます。
- ・弘前市水道についても、岩木川からの取水ができなくなることが想定されますが、その対応として、浅瀬石川ダムから取水している津軽広域水道企業団からの受水量を増量する予定です。

※昨年の渇水では、目屋ダム及び相馬ダムから17日間緊急放流を行い、農業被害を軽減できました。

なお、岩木川の渇水情報については当事務所のホームページにて公開しております。  
青森河川国道事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/aomori/>

発表記者会：青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社

### 問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所  
電話 017-734-4590（ダイヤルイン）

副所長（河川担当）  
河川管理課長

小山 幸男（内線204）  
熊谷 泰彦（内線331）

## <参考>

### ■ダムの現在の状況

#### ●目屋ダム（※別紙1）

8月10日 9時00分現在  
貯水位： 162.01 m<sup>3</sup>/s  
流入量： 0.42 m<sup>3</sup>/s  
放流量： 4.49 m<sup>3</sup>/s  
貯水率： 約11%

#### ●浅瀬石川ダム

8月10日 9時00分現在  
貯水位： 179.71 m<sup>3</sup>/s  
流入量： 10.30 m<sup>3</sup>/s  
放流量： 13.25 m<sup>3</sup>/s  
貯水率： 約66%

### ■岩木川の流況（8月10日 午前9時現在）

①観測所名 上岩木橋観測所  
・基準流量 2.296 m<sup>3</sup>/s （5カ年平均渇水流量）  
・現在の流況 1.60 m<sup>3</sup>/s

②観測所名 五所川原観測所  
・基準流量 19.0 m<sup>3</sup>/s （正常流量）  
・現在の流況 21.06 m<sup>3</sup>/s

- \* 「基準流量」とは、  
渇水対策支部設置の基準となる流量であり、上岩木橋観測地点では5カ年平均渇水流量、  
五所川原観測地点では正常流量を基準としている。
- \* 「渇水流量」とは、  
1年を通じて355日はこれより低下しない水位で、この時の流量です。
- \* 「正常流量」とは、  
魚類の生息状況、河川の環境、水質等を総合的に判断し、河川の維持に必要な流量です。

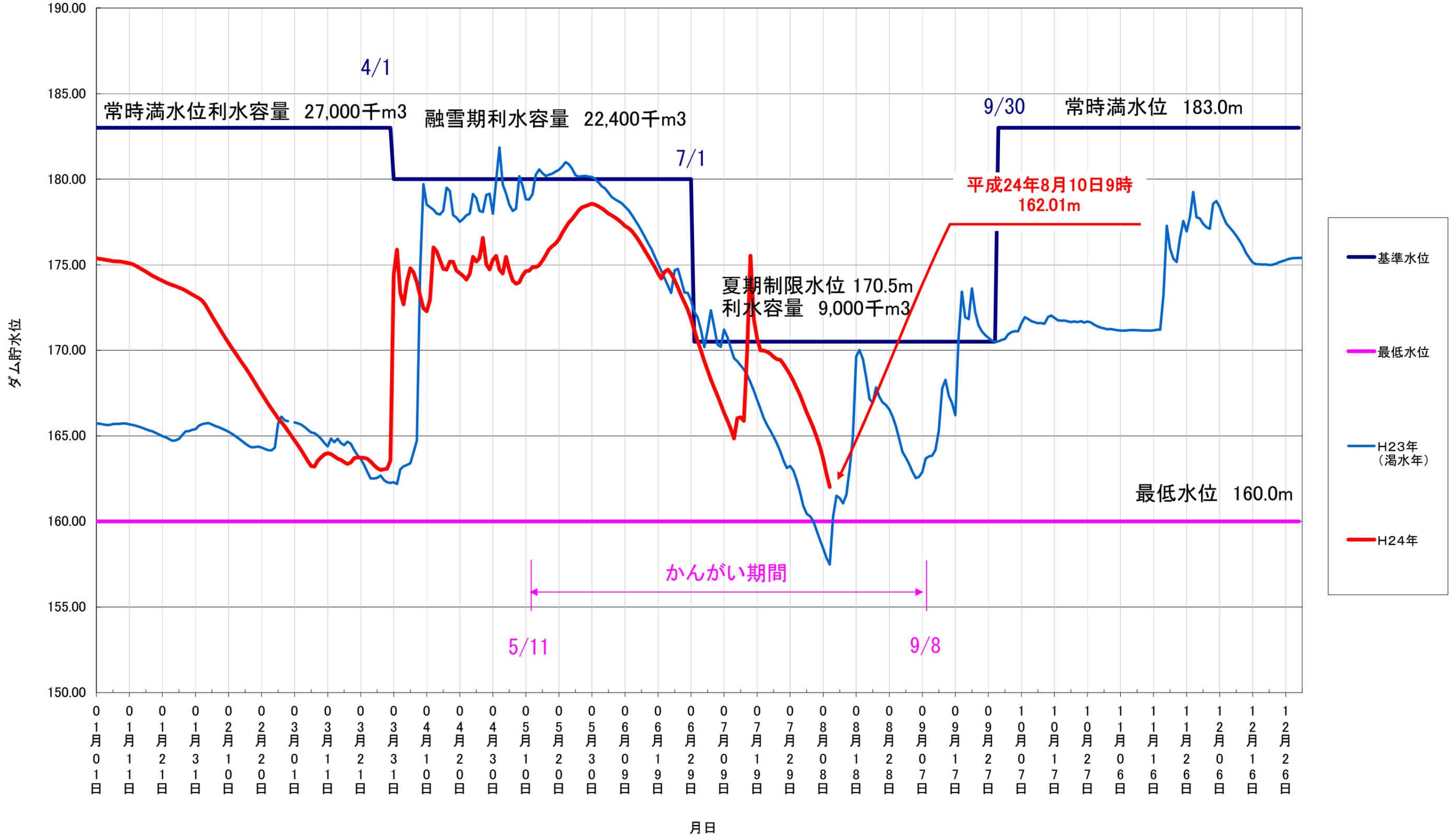
### ■浅瀬石川ダム・津軽ダムの効果

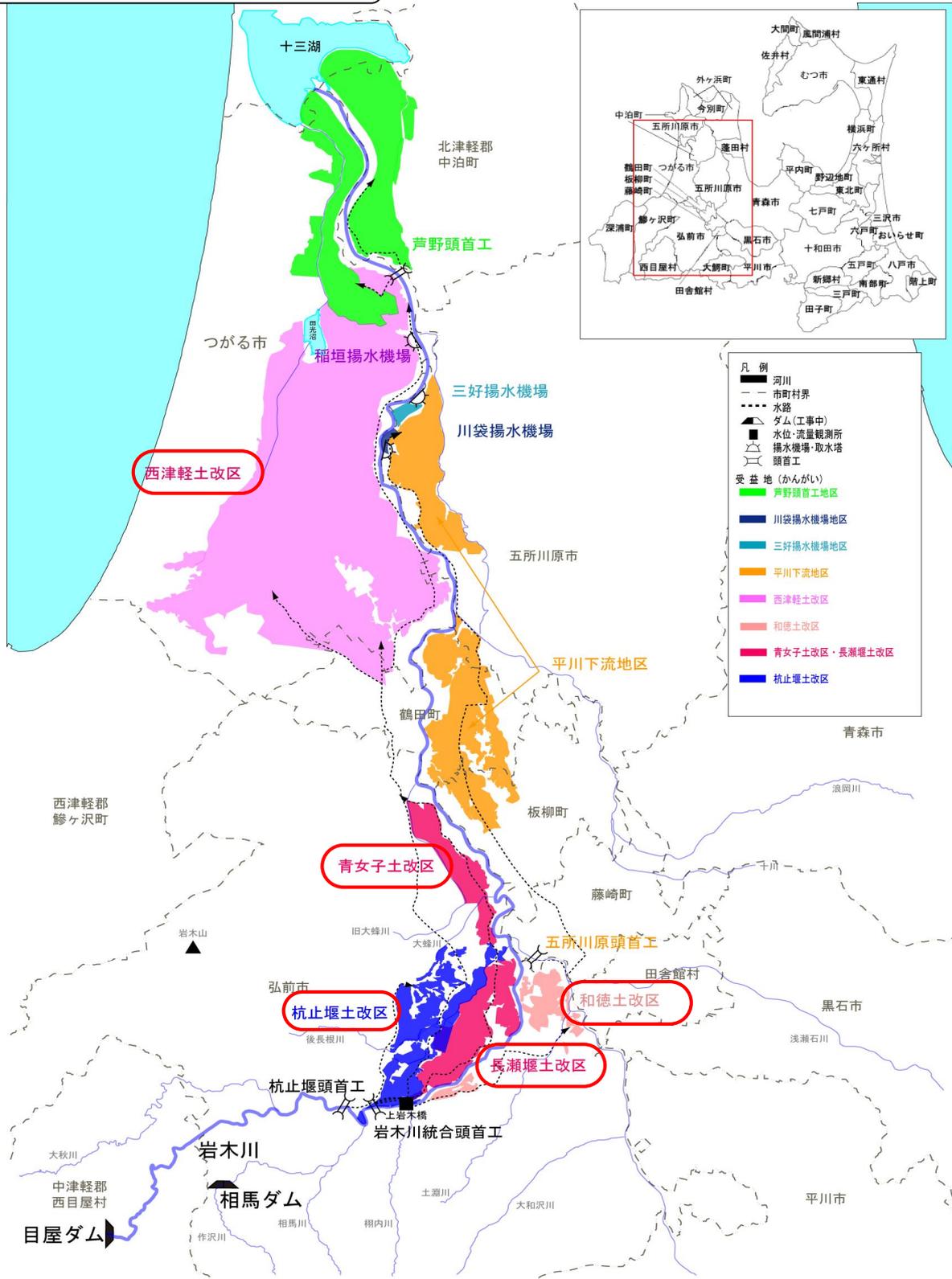
岩木川支川浅瀬石川にある浅瀬石川ダムでは現在も十分な貯水量を確保しており、浅瀬石川ダムから供給を受ける農業用水・水道水の確保に支障はない見込みです。

現在目屋ダムの下流に建設中の津軽ダム（平成28年竣工予定）が完成すると、有効貯水容量は目屋ダムの約4倍となります。津軽ダムが完成していたと仮定すると、昨年や今年の少雨の状況でも下流への用水の補給に支障を来すことはなかったと見込んでいます。岩木川水系の安定した水利用に寄与できるよう、引き続き事業の進捗に努めて参ります。

目屋ダム年間貯水位図  
(平成24年8月10日9時まで)

青森県河川砂防課  
平成24年8月10日





岩木川統合頭首工 ⇒ 約11,000ha  
 杭止堰頭首工 ⇒ 約600ha

岩木川土地改良区連合  
 (長瀬堰、和徳、青女子、西津軽、杭止堰 5土地改良区)

# 岩木川における河川の現況



岩木茜橋下流



岩木茜橋下流



岩木茜橋下流



富士見橋上流

流況の状況把握を実施